

授業科目 聴覚系構造・機能・病態

【担当教員名】 佐藤 克郎		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	前期 b	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		態度	
◎		◎		○	
【概要・一般目標：G10】 聴覚系の構造・機能・病態について聴器の微細構造と巧妙な聴覚機構、そしてその障害としての難聴をめぐって概説する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 講義内容を整理し理解して、きちんと説明ができるようにまとめる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	聴器の構造：外耳、中耳				構造 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
2	聴器の構造：内耳、聴覚伝導路と聴中枢				
3	聴器の機能：集音機構、伝音機構				
4	聴器の機能：感音機構				
5	聴器の病態：伝音難聴				
6	聴器の病態：感音難聴				
7	聴器の病態：後迷路性難聴				
8	聴器の病態：皮質性難聴				
【使用図書】		<書名> <著者名> <発行所> <発行年・価格 他> 言語聴覚士のための講義ノート 聴覚系耳科学 ―聴覚系の中野雄一― 考古堂書店 2008・2,000円 系の構造・機能・病態―			
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 出席・学習状況と定期試験から評価する。			【履修上の留意点】 学習ノートは学問体系を知る上でも重要。作成には工夫が必要。		